

大学日本語教員養成課程研究協議会

大養協 第36回大会

日時：2009年10月9日（金）14：00～17：00

場所：九州大学箱崎キャンパス

旧工学部本館10番講義室

1. 総会

14:00-14:20 理事会報告
その他

2. シンポジウム

「国内における非母語話者日本語教師養成の実際」

14:20-14:30 趣旨説明：新内康子（志學館大学 教授）

14:30-14:50 「大学院における非母語話者日本語教師養成の実際—東北大学の
場合—」
名嶋義直（東北大学大学院文学研究科 准教授）

14:50-15:10 「文化庁委託事業平成20年度『生活者としての外国人』のための
日本語教育事業『日本語能力を有する外国人を対象とした日本語
指導者養成講座』実施報告」
関山聡之（江戸カルチャーセンター日本語学校 外国人日本語
ボランティア養成担当）

15:10-15:30 「海外で日本語を教える非母語話者日本語教師の研修」
久保田美子（国際交流基金日本語国際センター 専任講師主任）

15:30-15:50 「非母語話者として『日本語を学ぶ』から『日本語を教える』へ」
林 炫情氏（山口県立大学 准教授）

15:50-16:00 まとめ・指定討論 新内康子（志學館大学 教授）

16:00-16:15 休憩・質問票回収・整理

16:15-16:50 討論・総括

シンポジウム

国内における非母語話者日本語教師養成の実際

【趣旨】

「生活者としての外国人」のための日本語教育や留学生受入 30 万人計画といった昨今および今後の日本語教育を取り巻く状況において、国内における非母語話者日本語教師・指導者の養成について議論し教育内容等のあり方を再考することは重要な課題です。

現在、結果的に非母語話者日本語教師・指導者養成も行っている機関の多くは、日本語母語話者教師養成教育に主たる視点をおき、母語話者と非母語話者との協働という学習形態をとっているのが状況です。一方、多文化共生が進む地域での非母語話者日本語指導者養成においても、何を取り上げどのような能力を育成すればいいのかといった基準がないため、手探りの状態で行われているといっても過言ではありません。

そこで、今回の大養協では、非母語話者日本語教師・指導者養成に特化した（あるいは、主とした）教育を行っている機関や団体の、教師養成の目的・目標、カリキュラムの特徴、教育上の工夫点、修了生の進路、問題点等といった具体的な事例を取り上げ、更に社会的要請が高まることが予想される非母語話者日本語教師・指導者養成の今後のあり方を探ることにいたしました。

【パネリストと題目】

- 1) 名嶋義直氏（東北大学大学院文学研究科准教授）

「大学院における非母語話者日本語教師養成の実際—東北大学の場合—」

- 2) 関山聡之氏（江戸カルチャーセンター日本語学校外国人日本語ボランティア養成担当）

「文化庁委託事業平成20年度『生活者としての外国人』のための日本語教育事業『日本語能力を有する外国人を対象とした日本語指導者養成講座』実施報告」

- 3) 久保田美子氏（国際交流基金日本語国際センター専任講師主任）

「海外で日本語を教える非母語話者日本語教師の研修」

- 4) 林 炫情氏（山口県立大学准教授）

「非母語話者として『日本語を学ぶ』から『日本語を教える』へ」

【指定討論者】 新内康子（志學館大学教授）

【企画】 古別府ひづる（山口県立大学准教授）・新内康子（志學館大学教授）

【司会】 新内康子（志學館大学教授）
